

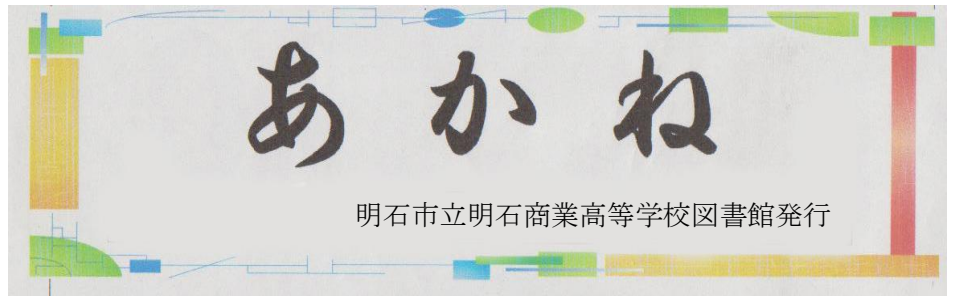
「森の匂いがした。秋の、夜に近い時間の森。風が木々

校長 楠田 俊夫

「羊と鋼の森」 宮下 奈都 著



読書のすすめ



を揺らし、ざわざわと葉の鳴る音がする。夜になりかける時間の、森の匂い。」
ピアノは、鋼でできた弦を羊の毛で作ったフェルトで叩いて音を出します。この小説は、北海道の森で育った少年が、都会にある高校の体育館の隅で、グランドピアノを前に、森を感じたところから始まる物語です。調律されていくピアノを見ながら、少年時代を過ごした森を思い出したが、著者である宮下奈都さんが織りなす透明感ある余韻が残る作品で、とても気に入っています。調律という作業によって、ピアノの音色は「丸い音」、「はなやかな音」など自在に変わります。調律を題材にした小説は少ないと思いますが、作品世界をたつぷり味わいつつ、演奏者、観客を幸せにできる調律師の匠の技にも、深い尊敬の念を抱きました。
少年が調律師の仕事を通じて、優しい人たちと出会いながら成長していく姿とともに、綺麗で爽やかな描写が、本を読む楽しさを感じさせてくれる作品です。

「読書のすすめ」

教頭 橋本 浩二



毎年、「本屋大賞」の話題を書かせていただいています。今年度も「2019本屋大賞」が発表され、瀬尾まいこさんの『そして、バトンは渡された』が大賞となりました。
幼い頃に母親を亡くした主人公の優子が、血の繋がらない親たちに次々とリレーされながら、たくさんの愛を受け、そして愛を与えながら幸せな日々を送るお話。
優子の明るさや、次々と変わる親たちに対しての心情や対応に心を打たれるのももちろんですが、親の立場である私にとつては、どれだけその人のことを想えるか、またその先にある家族、家庭の素晴らしさ、親がいいなと思わせてもらえ、涙が自然と流れたり、清々しい気持ちになつたり、周囲の人に優しくなれる内容です。
私の「読書スタイル」は今年も相変わらずで、現在は横山秀夫著「影踏み」、津村記久子著「この世にたやすい仕事はない」、「やりたいことは二度寝だけ」を並行して読み続けています。

「男振」

池波 正太郎 著
事務局長 藤田 彰彦



田下先生から図書館報の原稿を依頼された際に、就職して2つ目の職場の係長のことを思い出した。係長は「本を読みなさい」「何か本を読んだか」と毎日の挨拶のように、言っていました。私は面倒くさくなり、「何かいいものはありますか？」と聞いたら「吉川英治」「司馬遼太郎」「〇〇〇」と、難しく固苦しい本ばかり、たくさん買込んで読んでみたが、たいして目は疲れて20ページも進まないうちに寝てしまふというのでした。そんなときに、本屋で見つけたのが、「男振」(池波正太郎著)です。主人公の堀源太郎は若くして頭髪が抜け落ちる奇病にかかり、その容姿を主君の子に侮辱されたことで、乱暴をはたらくが、処分の音沙汰がない。どうしたことかそれには深いわけがあり、それから起こる家騒動に巻き込まれることとなる。いろんな人に助けられ、苦難を乗り越えてゆくが、最後は清々し

くさわやかな気持ちにさせてくれる作品でした。
いま、通勤電車に乗ると、10人中7〜8人がスマホでゲームをしているような光景を見ます。
ゲームは反射でしかないもので、考えることをしていないといわれています。ゲームの際には、前頭前野の脳の血流量は少ないことがわかってきました。このことはやる気が出ない。イライラする。むかつくことが多くなるといわれています。しかし、本を読んでその内容を思い起こす習慣を付けければ、想像力、相手を思いやる気持ちが醸成されます。ゲームをする時間のうちのたとえ何割かを本を読む時間に変えることができます。
私は、通勤電車では以下の気軽に読める本を読んでいます。
○ 永井路子 「二豊の妻」
○ 百田尚樹 「鋼(はがね)のメンタル」
○ 綾小路きみまろ 「有効期限の過ぎた亭主 賞味期限の過ぎた女房」
「こんな女房に誰がした？」



「君たちはどう生きるか」  
吉野 源三郎 著  
一年五組担任  
諏訪園 淳也



タイトルを聞くと、なんだか「ああしろ、こうしろ」という説教が続けられている、という感覚になる人も多いでしょう。しかしながら、この本はある「コペル君」という主人公の物語を通して、人間の道徳性に対する警句を述べています。

コペル君は中学2年生で、成績優秀な野球好きの少年です。彼が中学1年生のころ「叔父さん」とともに、銀座のデパートの屋上から真下を見下げるシーンから始まります。小雨の降る中、瀧んだ東京の街を見下ろすコペル君の心中と、その夜、叔父さんの書齋でみつけた1冊のノートが、のちに「生き方」の変化を引き起こすきっかけとなります。

このあと、大きく8つのストーリーで構成されます。前半は、豆腐屋の息子で、学校で仲間外れにされている「浦川君」とのストーリーで、コペル君は手を差し伸べ、共に過ごしていきます。後半は、雪の中、上級生からの圧力を受けていた友人を横目で見

ていたにも関わらず、助けられなかったコペル君は自身寝込むようになり、深く悩んでしまふ、というストーリーです。

こうしてコペル君の道徳心が叔父さんのノートとともに成長していきます。みなさんも、「人間としてどう生きるか」を、この本を通してもう一度見つめなおしてみませんか。そうすれば、もつと人にやさしく、親切な人間になれるかもしれません。

『探偵ガリレオ』シリーズ  
一年三組担任  
東野圭吾 著  
平石 天聡



「実におもしろい」というフレーズで有名になった福山雅治さん主演のドラマ、『探偵ガリレオ』の原作です。

皆さん最近活字を読む機会はありませんか？授業中に教科書を読むことがあっても、プライベートではほとんどないのではないのでしょうか。そんなスマホで動画を見てばかりという人に薦めたのが『探偵ガリレオ』シリーズです。何より、内容やト

リックがおもしろく文字を編み込んでいても疲れないし、短編の作品もあるので一気に読み進めることもできます。また、ドラマや映画を見てから本を読んでみることで、人物の心情の変化などを細かく読み取ることができて、変わった楽しみ方ができると思います。もちろん本を読んだからドラマ・映画というのもありだと思います。

私のおススメは長編の『容疑者Xの献身』と『聖女の救済』です。いずれも、犯人はこの人はず！と分かっているけれどトリックが分からない。どうやって、またどんな思いで犯行に及んだのか、読み進めるうちにどんどんのめり込んでいってしまいます。そして、すべてが明らかになって感慨にふけっている時に、ふと閉じた本のタイトルに目をやると「なるほど・・・」と言いたくなる名作です。ぜひ読んでみてください。

「竜馬がゆく」  
司馬 遼太郎 著  
二年担当 藤坂 真士

この作品は、司馬遼太郎の長編時代小説で、幕末維新を先導した坂本龍馬を主人公として描きます。また、大河ドラマ等で放送されたことでも有名です。

私がこの本を読もうと思っただけは、私自身が歴史（特に幕末）が好きで、高

校時代に日本史の模試で偏差値73をたたき出すほどだったからです。

作品の本身はその名の通り坂本龍馬やその周りの人々の一生を描いたもので、さすがに司馬遼太郎だと思えるほど臨場感の伝わる表現が多く使われています。その中でも、私が特に感動したのは、坂本龍馬の時代の流れを読む力や行動力、判断力はもちろんですが、坂本龍馬に心酔し、自らの命をかけてまで己の信念を貫いた志士達の姿です。今の時代では、自分の意志に命をかけるという事はあまりありませんし、それが正しいことだとも思いません。しかし、この本を読むことで何か熱いものを感じてもらえたらいいなと思っています。

私は、この作品を読み終えたあと、さらに歴史が好きになり、坂本龍馬が実際に訪れた場所に一度は行ってみたいと思いましたが、まだ行けていません。私の代わりに皆さんが訪れてくれることを期待しています。



「頭に来てアホとは戦うな！」

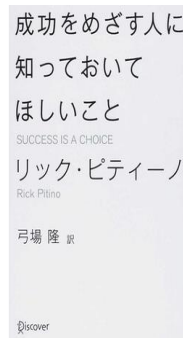
田村 耕太郎 著  
教務部 水澤 友助

全く本を読まない私が今回本を紹介するという事で、商の図書館へ。タイトルの「アホ」の部分に惹かれて手に取りました。

この本は「アホ」のことを、あなたがわざわざ戦ったり、悩んだりする価値のない人間。そして足を引っ張って不条理な人物のこと。と定義しています。こんな人間に出会ったことが必ずあると思います（私もあります）。その際あなたは、相手にしていませんか？同じ土俵に立っていませんか？さらには倍返しだ！と考えていませんか？当てはまった人は危険です。何が危険なのかというと、これらの行為で「アホ」を論破して得られるものは長い人生の中のたった一瞬のスッキリしかありません。これは、SNSで他人の投稿を眺めることやいいねの数を気にする事と同じくらい無駄です。そんなことに限りある時間やエネルギーを費やすのではなく、あなたの人生を輝かせるために使ってほしいです。

もし読みたいと思った人は、自分に当てはめながら読んでみるといいです。ああ無駄にしてしまったあと後悔するかもしれません。ですが、そう思えるようになったことが成長であり無駄のない人生の第一歩でしょう。

「成功をめざす人に知ってほしいこと」  
 リック・ピティーノ 著  
 一年学年担当  
 宮倉 京亮



私はNBAの監督の経験を持つ人の感覚を知りたいと思つた事から始まりました。

この話は成功のためにそれぞれが何ができるか明確にし、具体的にどう努力するかが大切であり、成功も人によつて定義が異なり、アプローチ方法も異なるというこゝとを的確に書いてある本です。

著者であるNBA監督、アメリカの大学のバスケットボール部の監督の経験も書いてあり、チームに対しての明確な目的の達成方法であったり、そこまでのプロセスをいかに大切にしているかというところが今の私にも共感できるところでもあります。ただの成功者、出世した人の話ではなく、考え方をどう変えるかという話なので読みやすいです。

高校生の間では、成績で上位を取る事が成功ととらえる人もいれば、進路実現が成

功ととらえる人もいると思います。それぞれが定義する成功は異なりますが、その成功に向かつてどうアプローチができるか、考えることが大切になると思います。学生という時間は限られています。その中で、高校生の間は多くの選択肢があり、いろんなことに挑戦できます。多くの事に挑戦し、人生の可能性を広げられるような人間になつてください。

「心を整える。」  
 長谷部 誠 著  
 保健体育科  
 須山 貴文



あなたにおすすめた本をご紹介します。この本は、私が大学に入学する前に読んでいた本です。大学前なので、皆さんと同じ高校生の時です。この本は、サッカー元日本代表の長谷部 誠選手が書かれた「心を整える」という本です。メンタルを鍛えるという言葉があります。が、長谷部選手はメンタルは鍛えるものではなく、「心を整える」ことが大切だということを書いてあります。これは、プロサッカー選手である長谷部選手が書かれた本です。

が、サッカー選手という経験の中から学んだことや実際に著者が実践している「勝利をたぐり寄せる56の習慣」ということが書かれています。学校の勉強、部活動の成績、夢を追いかけている人、自らの私生活、仕事で悩んでいる人、「心を整える」の本は、プロスポーツ選手だけではなく、年齢に関係なくどんな立場の人が読んでも参考にできる内容が書かれています。どんな習慣があるのかそれを見て下さい。「心を整える」という本当の意味を知ることが出来ます。興味を持たれた方はぜひ一度読んでみてください。

「気持ちわかる方法」

総務部 米谷 泰宏

「読書」と聞くと、何か大変な気持ちになつて、なかなか手が伸びないかもしれせん。

色々な場面で「読書」の重要性を耳にすると、重要なが、なぜ「読書」が重要なのでしょう。それは、読書が「気持ちわかる方法」だからだと考えています。

人間は「自分の知っている言葉」の範囲でしか物事を認識することが出来ません。よく言われます。例えば、目の前には空気があります。が、もし「空気」という言葉が無ければ、目に見えないこ

の物質をどのように表現しますか。そもそも、「空気」というものがあることすら知らないままかもしれないのです。

同様に、「気持ち」というものも目には見えません。みなさんは、その見えない「気持ち」を相手の言葉や仕草で理解しようとしています。しかし、理解しようとしても、相手の意図や気持ちが分からないときはありませんか。それは、相手を理解するための「判断材料」が足りないからです。みなさんは「過去の知識と経験」から、相手の「気持ち」を判断しています。しかし、「自分の体験していないこと」や、「自分とは違う考え」とは判断できないのです。人は全ての「経験」や「考え方」を自分のものにするのは不可能です。だからこそ、「体験できないこと」や「自分とは違う考え」を読書を通して知ること判断材料が増え、「見えなかつたもの」が「見える」ようになるのです。

みなさんがこれから生きていく中で、どのような時代になるうとも人との関わりは欠かすことが出来ないと思ひます。だからこそ、相手の「気持ちわかる」ことは、みなさんが幸せに生きていくために欠かせない力だと思ひます。少しでもみなさんが読書を通して、幸せな未来をつかんでくれることを願っています。

本の表紙と題名を見て、素敵だな、綺麗な言葉だなと思ひ書店で手に取つたのがこの本を読むきっかけでした。主人公OL二ノ宮こと葉は、想いをよせていた幼なじみ厚志の結婚式に最悪の気分でお席していた。ところがその結婚式で涙が溢れるほど感動する衝撃的なスピーチに出会う。それは伝説のスピーチライターの久遠久美の祝辞だった。空気を一変させたこと葉はすぐに弟子入り。久美の教えを受け、「政権交代」を叫ぶ野党のスピーチライターに抜擢された「目頭が熱くなるお仕事小説」(表紙あらずじより)

「本日はお日柄もよく」  
 事務局 原田 マハ 著  
 竹口 涼花



本日は、お日柄もよく

読んでいる最中に言葉の持つ力に魅了され、言葉一つ一つにこんなにも深い意味が込められているのだと改めて感じました。言葉の持つ力つてすごいですね。人前で話すことが決して得意で



はなくとも、本気で考え悩むことで本人の思いや熱意が言葉に宿り、そしてその言葉は聴衆の心を揺るがす大きなきっかけとなり、波となっていく。本書はスピーチライターのお仕事だけではなく、主人公のこと葉とスピーチライターの久美さんの親子のような会話、随所にちりばめられた恋愛要素、政治にかける熱い思いなど、楽しめる要素が盛りだくさんでした。

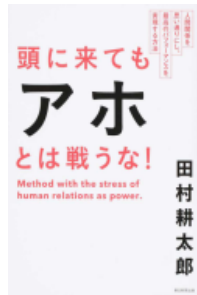
政治のお話も絡んでくるのですが、とても読み易くスラスラと読めました。スピーチをする極意なども教えてくれて、小説なのに実用書を読んでいる感覚になりとても勉強になりました。

書店や図書館などで見かけましたらぜひ手に取って読んでみてください。

「頭に来てアホとは戦うな！」

田村 耕太郎 著  
事務局 寛 幸二

「アホ」と言うところある程度心あたりがあるだろう。要はむやみやたらとあなたの足を引っ張る人だ。あなたに興味があり、かまってる人から理不尽なことを言ってくるのです。まず暇であるこのアホは、あなたに強い関心がある人です。ここで想定するアホとはどんな人物だろうか？一言でいえば、あなたがわざわざ戦ったり、悩んだりする価値のない人間で不条理な人物です。人生は一度きり、他人の目ばかり気にせず本当にすべきことに全力を注いでください。



図書館より

六十五回生の皆さん、卒業おめでとうございます。進学する人も社会人になる人も本を読むことは、気分転換にもなり、新たな発見があり、新生活の何かの助けになると思います。

新生活で何か壁を感じるようなことがあれば、解消する方法の一つとして覚えておいてください。活字から想像力の翼を広げてみてください。

先日、センバツに本校野球部が選ばれたので、毎日新聞の方の取材を受けました。年齢もはっきり書かれていたので、卒業生が冷やかしに連絡してきてあと二年で定年やとからかわれました。

昼の休み時間にご飯を食べているだけなのですが、休みに来ているように書かれていたこと、私が休みに来ていいと書いてありました。が、ご飯を食べに来てもいいという表現が、聞いた人には休みに来ると変わってしまいました。

言葉のやり取りですが、微妙な表現の違いになることが分かりました。定年まであと二年ですが、まだまだ学ぶことが多いと思う毎日です。センバツの雑誌も入荷！

昨年末から就活ではなく、終活を始めました。これからの生活に必要なものだけに

して、残り処分していかうと決め、便利屋さん頼みました。(重いもの、気軽に捨てられないものなど) 必死で断捨離をしながら、狭い家の中にこんな物があつたのかと驚いています。作業はまだ続きます。終わりが見えないので、気長に頑張ろうと思います。

卒業生も人生の節目を迎えています。私とは違いますが、上り坂に差し掛かっています。それぞれの頂点に向かい、夢を実現させてください。

今回の芥川賞と直木賞の受賞作品ですが、まだ図書館には入荷していません。



編集後記

「あかね」第一一四号をお届けします。「読書のすすめ」には、今年度、新しく着任されました先生方を中心に執

筆をお願いにありがとうございました。ところ、快くご承諾いただき誠にありがとうございます。生徒の皆さんの新たな本と出会い、知らなかった世界を広げることのきっかけになれるように願っています。

直木賞・芥川賞・ノーベル文学賞などの受賞作品やノミネット作品・本屋大賞などを中心に購入しましたが、来年度も多くのリクエストを寄せてもらえたらと思っております。特に今回、明石出身の上田岳弘さんが受賞されたので寄贈本もいただきました。

また、今年度は昨年に引き続き、資格・検定の取得に関する参考書や英検・漢検・情報処理・日商簿記などの問題集・小論文の書き方なども入っていますので、活用してください。

今年もできるだけ多くの生徒に来館してもらえようと思ひ、活動してきましたが、来館者数は少々増えていくようですが、貸出冊数はそれほど増えてはいません。本の魅力についてはまだまだ伝えきれないようなように思ひ反省しています。

数台の中古のノートパソコンも導入していますので、活用してください。

またホームページに、図書の新着案内を掲載していますので、ホームページもチェックして、是非図書館を利用してください。

(図書館長)